

15 年度第 1 四半期決算説明会 質疑応答要約

ドミノ社 M&A 関連

Q) ドミノ社にとって、ブラザーグループとなることのメリットはどのようなことがあるのか？

A) ドミノ社は安定的に成長してきた会社ではあるが、産業用プリンティング領域の技術革新のスピードはとても速いものがある。とくに今後の市場拡大が期待されるデジタルラベルプリンティングにおいて、ブラザーグループとして一体的に事業を進めることで、グループの技術や知財、人材などを有効に活用することで、より高い成長を実現できると考えている。

Q) 3 年目以降から具体的なシナジーを見込んでいるようだが、最初の 2 年間は、先行的な費用等の発生により、損益が圧迫されてしまう可能性があるのか？

A) 統合による効果については、数年間にわたり、いくつかの段階を経て、実現させていくことを考えている。よって最初の数年間は、将来の成長のために、製造面や販売面などをある程度強化していくことを想定している。ただし全社の損益に対してあまり大きなインパクトを与えないように、調達コストの削減を原資するなど、ある程度バランスを意識して進めていきたいと考えている。

既存事業関連

Q) プリンターの市況についてどう考えているのか？

A) 競争環境については、米州を中心に厳しい状況が続いているという認識をもっている。第 1 四半期は、流通チャネルでの在庫調整により、セルインが弱含んだ地域があったこともあり、ハードの販売数量は期初の想定を下回った。ただ、市場自体には大きな変調は感じられないため、在庫調整は早期に改善すると考えている。

Q) 産業機器、第 1 四半期は非常に良い業績だったと思うが、年間の業績達成に向けて、どういったことを考えているのか？

A) 足元では IT 関連の受注は落ち込んできているが、今回の業績予想では年間の業績予想については変更していない。IT 関連については、下期に受注が回復することを期待している。また、数年前より自動車関連の顧客向けの取り組みも強化しており、堅調に推移していることから、現時点では期初の計画を何とか達成したいと考えている。